

令和 4 年 8 月 19 日

## ウクライナ人研究者の研修受入れ

福島大学環境放射能研究所（IER）では、本年 7 月末からの約 4 カ月間、ウクライナから 1 名の研究者（オレナ・ブルドー博士）を受入れ、研修を実施します。

### 背景

IER では 2017 年度に SATREPS※による「チョルノービリ災害後の環境管理支援技術の確立」を筑波大学・福島県立医科大学とともに開始しました。ウクライナの 3 つの政府機関および 12 の研究機関と共同で、放射能汚染地域の有効活用というウクライナ政府の方針を支援するため、原子力災害後の環境影響評価等の研究活動を実施して参りました。しかし、本年 2 月 24 日から始まったロシアによるウクライナ侵略戦争により、ウクライナ国内での研究活動は中断、共同研究機関は大きな被害を受けています。そこで IER ではウクライナの若手研究者の希望を受けて、人材育成の一環として技術研修の受入れを行います。

### 研修内容

今回、IER の難波謙二所長、石庭寛子特任講師らがホストとなり、ウクライナ国立科学アカデミー原子力研究所に所属する研究員 オレナ・ブルドー（Olena BURDO）さんを受入れます。ブルドーさんの専門分野は放射線生物学で、これまでプロジェクトメンバーの一員として、チョルノービリ原発事故被災地に生息する野生のネズミ類の骨髄細胞への放射線影響を調査してきました。

研修では、ヒトおよび野生生物への被ばく線量評価の最新技術の習得を目標にしています。具体的には、放射線などの影響を受けた異常な染色体を識別するための細胞遺伝学的解析技術です。

研修期間中は、弘前大学被ばく医療総合研究所および北海道科学大学の研究者らにも協力いただく予定です。また、福島第一原子力発電所や、福島県浜通りの原発事故被災地域で、福島における除染や復興への取組み、放射能汚染の現状について学ぶための視察も予定しています。

ウクライナ帰国後は習得した細胞遺伝学的手法を活用して、チョルノービリ地域の野生のネズミ類への放射線影響研究を展開することを目指します。

研修は 12 月 11 日までの予定です。一日も早くウクライナの情勢が安定し、ブルドーさんはじめウクライナ人研究者が再び平和な環境で研究活動を継続できることを願うばかりです。

※SATREPS とは

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development、通称サトレップス）は、JICA（独立行政法人 国際協力機構）と JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）が共同で実施する、日本と開発途上国の研究者が共同で研究を行うプログラムです。地球規模課題の解決と、両国での科学技術水準の向上を目指しています。

プログラムの活動のうち、相手国の人材育成は JICA の支援によるもので、今回の研修は JICA による ODA（政府開発援助）事業として実施されます。

（取材申込・お問い合わせ先）

環境放射能研究所 特任講師（研修受入担当教員）・石庭 寛子

電話：024-504-2726

メール：ishiniwa@ier.fukushima-u.ac.jp